

gakuto

学塔



2014.Autumn

No.133



クローズアップ
自著を語る。「小林多喜二の思想と文学」

ここから広げよう
各学部の先生からのオススメ本

From Students
お頼みします。写真部さん
教えて!学生バイトさん

ブックロウのPick Upコーナー!!

企画展示「開化期の教科書」開催報告
企画展示「近代辞書の歩み」開催報告
オープンライブラリー開催報告

News!

秋の図書館講習会開催

特集

図書館のお仕事紹介
~ILL(相互貸借)サービス~

自著を語る。



「小林多喜二」の出発点を探る
『小林多喜二の思想と文学』について
紹介ください。

小林多喜二の文学は、満州事変（一九三一年）の頃、日本社会が急速に変化を遂げた時代に執筆されています。国際協調というスローガンの下で大正デモクラシーが謳歌されたのもつかの間、昭和に入ると、市民の自由と権利が著しく規制されてゆくこととなります。普通選挙法と治安維持法というアメとムチの政策によって、市民が抱いていた自由や平等といった理想がまったくの幻影とされ、理想を守ろうとする人間に対しては、過酷な弾圧が待ち受けていました。

多喜二の文学の魅力は、消えてしまえばそうになっていた理想を追い求めると同時に、不当な暴力に対して、毅然とした姿勢で立ち向かおうとしたところにあります。バラバラに分断されて無力化された《個》に再び息を吹き込み、《集団》として結束することによって、自分たちを支配しているものに

業者を二人もいなくしよう」というのです。ここで多喜二が主張しているのは、多くの市民が侵略戦争に加担していったのは、失業者の救済という経済的な理由からだったというのです。美しいスローガンの陰には、つねに落とし穴が待ち構えています。自分たちが豊かになれるのなら、他の誰かを犠牲にしても構わない。残念ながらこのような考え方は、今の世の中にも広く共有されています。ゆき過ぎた市場原理主義は、差別や貧困を放置し拡大させます。なぜなら、自分よりも劣ったものは、劣悪な状況におかれてもやむを得ないのだという誤った考えと結びついてしまうからです。

多喜二の時代、新聞紙法や軍機保護法などの法律によって、国の内外でどのような事態が起こっているのか、市民は正確に知ることができませんでした。《外国の脅威からの自衛》という理由を聞かされるだけで、戦争に反対することも許されず、戦時体制に動員させられていったのです。

多喜二は、生活格差の是正と侵略戦争の反対を訴えたプロレタリア文学運動に参加しました。しかし運動は弾圧を受け、運動の内部でも路線対立をめぐって分裂が生じることになりました。このような困難な状況のなかで、内外の敵と果敢に闘った多喜二の姿に魅力を感じました。

被爆地「広島」で過ごした勉学の日々
―学生時代の思い出を語ってほしい―

私が大学生だった頃、日本経済はバブル景気の頂点にありました。友人はみな、複数の企業から内定をもらったり、公務員や教員試験に合格したりしていました。今日の厳しい状況からいえば、隔世の感があります。しかし私自身はバブルとは無縁の生活で、着ているものもみすぼらしく、書籍ばかりを購入していました。そのころから留学生の友人がたくさんでき、北京師範大学外国語学院の副院長になった王志松教授とは、夫婦ともども親

尾西康充 先生
人文学部教授

『小林多喜二の思想と文学』
：貧困・格差・ファシズムの時代に生きて
〈大月書店、2013.9〉
[所在] 図・展示棚
[請求記号] 910.28 / Ko 12



対して異議を申し立てる勇氣を持つようと呼びかけたのです。本書では、一人ひとりの人間に熱い血を通わせようとした多喜二の出発点を明らかにしました。料理屋で働きながら売春を強いられていた田口タキ、三・二五事件で特高警察による残酷な拷問にさらされていた同志たち―貧しさと暴力のなかで生きる権利を奪われようとしていた人間に対する深い共感から、多喜二の文学は始まったのです。

小林多喜二の小説のなかに、つぎのような一節があります。日本が満州（中国東北部）を侵略したのは、「ただ『忠君愛国』だとか、中国人が憎いことをするからやっつけろとか、そんなことからではない。満州を取ったら、内地の失業者はドシドシ満州に出かけてゆく、そうして行く行くは日本から失

果敢に闘う「小林多喜二」に魅せられて
―「小林多喜二」に興味を持たれた経緯を教えてください。―

交が続いています。その一方、広島という都市で過ごした意味は、とても大きかったと思います。ちょうど被爆後四〇年に当たる年に入学しましたが、被爆者にとって四〇年は長いようで、実は短い時間です。なぜなら、決して癒されることのない傷みを抱えながら、生きることに、そして生きなければならぬことの意味をつねに問い直し続ける時間だからです。しかし彼らの記憶をよみがえらせるかのように、3・11フクシマをきっかけに、日本社会は大きな困難と向き合うことになりました。

「自己実現」から「社会的連帯」へ思想
転換を
―最後に三重大学へ向けてメッセージをお願いします。―

将来は何がしたいのか、自分がなりたい職業は何か、ということだけを考えるのではなく、その職業に就くことによって、多くの矛盾を抱えた今の社会に対して、どのような貢献ができるのか、どのような変革を起こそうとするのか、を考えてほしいと思います。《自己実現》ではなく《社会的連帯》への思考転換です。

【尾西康充先生プロフィール】
広島大学大学院教育学研究科博士課程後期修了。現在、三重大学人文学部教授。専門分野は日本近代文学。文部科学省在外研究員としてオックスフォード大学キーブルカレッジに留学。北京日本学術研究センターおよびサンパウロ大学日本研究所客員教授。これまでの主な研究業績として、『田村泰次郎の戦争文学：中国山西省での従軍体験から』（笠間書院）、『「或る女」とアメリカ体験：有島武郎の理想と叛逆』（岩波書店）など多数。

ここから広げよう!!各学部の先生からの オススメ本 READING LIST

人文学部 北川真也先生

酒井隆史 著
『暴力の哲学』
河出書房新社
[所在] 図・開架・図書
[請求記号] 361.4 / Sa29

暴力はいけません。これは当たり前のモラルだろうか。しかし、大学はモラルをただ尊重する場所ではない。むしろ、このような既成の価値をたえず問いの俎上に載せる場所のはずだ。物事の善悪を判断する前に。善悪で物事を判断する前に。本書はこうした立場から、暴力についての思考を実践している。暴力を生き抜き、それと闘ってきた思想家・革命家たちとともに。暴力と非暴力の境界は、そんなに明瞭なものだろうか。

教育学部 松本昭彦先生

山本淳子 著
『平安人の心で「源氏物語」を読む』
朝日新聞出版
[所在] 図・開架・図書
[請求記号] 913.36 / Y31

『源氏物語』五十四帖の解説を各項の冒頭に置いた上で、それぞれの巻からトピックの一つ取り挙げ、それが平安時代においてどういう意味を持っていたか、いわゆる「古典常識」を親しみやすく解説する。だけでなく、桐壺の更衣のモデルに、作者と同時代の藤原定子の悲劇を想定するなど、著者オリジナルの部分も多い。『源氏物語』がどのような時代の中で生み出されたか、を知る恰好の入門書である。

医学部 新小田春美先生

小林亜津子 著
『生殖医療はヒトを幸せにするのか?生命倫理を考える』
光文社新書
[所在] 図・開架・図書
[請求記号] 495.49 / Ko12

不妊夫婦が、子どもを生殖医療で望むケースが急増している。また、婚活ならぬ「婚前卵活」するシングル女性も現れてきたという。「新型着床前診断」など、生殖医療技術の急速な進歩は、子孫繁栄というニーズに答える福音をもたらす一方で、命の尊厳や人間観に倫理上のモラル・ジレンマを生んでいる。生殖補助医療の現状を知り、命の原点、家族観・親子関係の有り様を考えてほしい。

工学部 清水真先生

國分信英 著
『フッ素の化学』
裳華房
[所在] 図・開架・図書
[請求記号] 435.33 / KO45

テフロン加工のフライパンは、現代生活には欠く事のできないものになっている。一方、冷蔵庫、エアコンなどではフロンガスが冷媒として多用されてきた。その結果、オゾン層の破壊という地球環境問題を引き起こしている。このように身近なところで話題にのぼることの多いフッ素の化合物について、本書では化学の視点からわかりやすく解説しており、ぜひ一読をお勧めしたい1冊である。

生物資源学部 奥村克純先生

太田邦史 著
『エピゲノムと生命 : DNA だけでない「遺伝」のしくみ』
講談社 ブルーバックス
[所在] 図・開架・図書
[請求記号] 467.7 / O81

まったく同じDNAから眼や心臓など異なる細胞ができるのはなぜ?がんや生活習慣病にも大きくかわるエピゲノムの世界を、DNAは「裸」でなく「服」を着た状態で、環境によって服装を替えるとわかりやすく解説。最新の文献も掲載され、第一線の研究者である著者の極めて幅広い見識からのエピソードや雑談は文系の学生にも飽きさせず、理系の若者には必ずや心の灯火を点してくれる名著である。

教養教育機構 杉崎鉦司先生

戸田山和久 著
『「科学的思考」のレッスン: 学校で教えてくれないサイエンス』
NHK出版
[所在] 図・開架・図書
[請求記号] 404 / To17

科学的に考える能力は専門分野を問わず必要とされる能力だが、それを育てるには、そもそも「科学的思考」とは何か、あるいはより根本的に「科学」とは何かについて理解しておかねばならない。本書はこれらの問いに対する答えをわかりやすく解説した入門書である。科学的概念を解説した第1部は、特に理系の学生には、研究分野の背後にある基本的な思考法を理解するために必読と思われる。

図書館のお仕事紹介 ~ILL(相互貸借)サービス~

返却する
 参考調査カウンターへ返却してください。
 (返却期限日の延長はできません)



返送する

汚れ・折れなどがないことをチェックし、丁寧に梱包して郵送します。

そんな時こそILLサービスを利用してみよう!!



この資料はMU-OPACで検索したけど、図書館には所蔵されていないみたい…どうしよう…?

※MU-OPACとは、三重大学の蔵書(本や雑誌など)をオンラインで検索するシステムです。

さらに調べる

図書館になくても、電子ジャーナルなどで本文が見られることもあります。



サポートします

見たい資料があり、OPACやデータベースで調べてみたけどよくわからない…etc
お困りの時は気軽に参考調査カウンターで聞いてみてくださいね。

利用する

依頼する

NACSIS-ILL、MILAI、FAX、郵送、電子メールなど、相手館に応じた方法で依頼します。

探す

NACSIS-ILLという図書館システムや、各図書館OPAC、冊子目録、インターネットなど様々なツールを用いて所蔵館を探します。

受け取る

お渡しする準備ができしだい、メールなどでご連絡します。



※通常1週間から10日程度かかります。

引き渡し
 参考調査カウンターにお越しください。

申し込む

参考調査カウンター



or

Myポータル

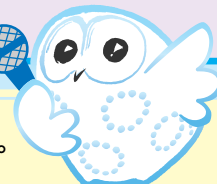


三重大学図書館で所蔵していない資料(本や雑誌論文)を、県内の図書館、または他大学図書館より取り寄せ出来る事をご存じですか?
 今回の特集では、簡単な利用方法に沿って仕事の流れを説明してみます。
 また、利用方法は参考調査カウンター(平日9時~17時)でもご案内していますので是非お越し下さい。

From Students

三重大学図書館

お頼みします。写真部さん



今号から『学塔』の写真撮影の一部を写真部の皆さんにお願いすることになりました。写真部の皆さん、一言お願いします。

■『学塔』写真撮影への意気込みをお願いします。

写真を通して、温かくて落ち着く図書館が伝えられるように頑張ります！

■6/23～6/27に図書館玄関ホールで「写真部6月部展」が開催されました。皆さんの反応はいかがでしたか？

今回の展示会は、モノクロ写真とカラー写真の対比を意識しましたが、多くの方に楽しんでいただけました。写真展は学祭などほかの機会にも開催しています。ぜひ、写真の圧倒的表現力を感じてみてください。



教えて！学生バイトさん

平日夕方や土日祝日、図書館で勤務してくれている大学院生さんお二人に伺いました。

生物資源学研究科
清水陽介さん



A1. 大学院生物資源学研究科1年の清水陽介です。ウイルスがどのように感染相手に感染するかを調べています。

A2. 研究に必要な図書が他大学にあったため、ILLを利用し図書を取り寄せてもらいました。

A3. 書庫内の図書をお勧めします。ネット上で閲覧できない古い論文が収められた図書や手書きで書かれた貴重な本があったりするので、ぜひ活用してください。

A4. 図書館で働く前は、あまり図書館を利用していなかったのですが、働いてみると利用者の方が利用しやすいようにいろいろ工夫されていることに気づきました。また、本に囲まれて仕事をするうちに、今まで読まなかった本も読むようになりました。図書館にはステキな本がたくさんあるので、利用者の方にもいろいろな本と出会ってほしいです。



- Q1. 自己紹介と研究内容をお願いします
- Q2. 学部生時代の図書館の活用法は？
- Q3. 図書館のオススメ利用法を教えてください
- Q4. 図書館で働いた感想をお願いします

生物資源学研究科
奥川慶さん



A1. 大学院生物資源学研究科2年の奥川慶です。セルロース分解菌に関する研究をしています。

A2. 実験に必要な資料を探すために利用していました。専門書を探すためにも利用していましたが、特に国内外の多くの雑誌から論文を検索できる電子ジャーナルが便利だったので、よく使用していました。

A3. 資料の取り寄せなどができる点です。探している資料がない場合でも、ILLというサービスを利用して他館から取り寄せることができます。また、読んでみたい本があれば購入のリクエストも可能ですので利用してみてください。

A4. 返本や書架整理の作業が大変なこともありますが、意外な発見もあり楽しみながら働いています。利用しやすい図書館をめざし今後も励んでいきます。



ブック回りの Pick Up コーナー!!

図書館のホームページ
<http://www.lib.mie-u.ac.jp/>
から Check it out !!

企画展示「開化期の教科書」開催報告

4月10日(木)～5月30日(金)、企画展示「開化期の教科書」が開催されました。三重大学附属図書館が所蔵する明治期の小学校教科書14点を紹介しました。戦前の「小学校」は現在の小学1年生から中学2年生が行く学校でした。明治期にはめまぐるしく教育制度が変更され、教科書もそれにしたがって頻繁に変更されました。また戦前には「修身」という道徳科目がありました。第2次安倍政権は教育制度の改革に積極的です。今回の展示が教育の将来を考える手がかりになったのではないのでしょうか。

吉丸 雄哉 (人文学部 准教授)



企画展示「近代辞書の歩み」開催中

7月22日(火)～10月22日(水)、企画展示「近代辞書の歩み」が開催されています。三重大学附属図書館が所蔵する大槻文彦『言海』(1889-91)から現代の辞書に至るまで、主要な辞書13点をご紹介します。今回の展示では、展示ケースによる展示のほか館内に特別陳列棚を設けて複本を手にとって閲覧できるようにしました。独力で編まれた『言海』、30年3000人の力で編まれた『日本国語大辞典』第二版、編集者の語釈が独自の『新明解国語辞典』など、多種多様な辞書の世界を深く楽しんでいただけたと思います。

吉丸 雄哉 (人文学部 准教授)



オープンライブラリ開催報告

8月7日(木)～8日(金)、大学のオープンキャンパスに合わせて「オープンライブラリ」を開催しました。玄関ホールで附属図書館を紹介したスライドショーをご覧いただいたり、自由に図書館内の様子を見学していただきました。うだるような蒸し暑いなか、公共図書館とは少し違う大学図書館の雰囲気味わっていただけようです。約630名の皆さんにご来館いただきました。



秋の文献検索講習会を開催します!

	10/24 金 FRI	10/27 月 MON	10/28 火 TUE	10/29 水 WED	10/30 木 THU
10:30~ 12:00	国内	海外	国内	海外	国内
14:40~ 16:10	海外	国内	海外	国内	海外

実施期間・内容は左の日程表で確認してください。
当日参加も大歓迎です。

時 間：午前の部(10:30~)、午後の部(14:40~)

場 所：附属図書館2F PCコーナー

予約優先：参考調査カウンター・E-mail・電話にて
お申し込みください

連 絡 先：附属図書館利用者サービス担当(情報リテラシー)
(メール) literacy@ab.mie-u.ac.jp
(電話) 059-231-9089

国内

← CiNii Articlesを使って国内文献の
入手方法を学びます

飛び入り
大歓迎!!



海外

← Web of Science を使って海外文献の
入手方法を学びます

展示図書コーナー新着図書 (2014年1月~6月発行分)

- 内田淳正 学長／『何とかなる』 内田淳正著. 中部経済新聞社, 2014.6 [289.1/U 14]
- 水越允治 人文学部名誉教授／『古記録による11世紀の天候記録』
水越允治編. 東京堂出版, 2014.6 [451.916/Ko 43]
- 小川眞里子 人文学部特任教授／『ジェンダーから見た世界史：歴史を読み替える』
三成美保, 姫岡とし子, 小浜正子編. 大月書店, 2014.5 [367.2/J 36]
- 山田雄司 人文学部教授／『怨霊・怪異・伊勢神宮』 山田雄司著. 思文閣出版, 2014.6 [210.04/Y 19]
- 山田雄司 人文学部教授／『忍者の教科書：新万川集海』 伊賀忍者研究会編. 笠間書院, 2014.2 [789.8/N 76]
- 塚本明 人文学部教授／『近世伊勢神宮領の触穢観念と被差別民』
塚本明著. 清文堂出版, 2014.3 [382.156/Ts 54]
- 吉丸雄哉 人文学部准教授／『忍者文芸研究読本』
吉丸雄哉, 山田雄司, 尾西康充編著. 笠間書院, 2014.4 [789.8/Y 91]
- 藤田達生 教育学部教授／『天下統一：信長と秀吉が成し遂げた「革命」』
藤田達生著. 中央公論新社, 2014.4 [210.47/F 67]
- 三井利幸 工学部非常勤講師／『安全工学』 三井利幸著. 一粒書房, 2014.3 [509.8/Mi 64]
- 柿沼誠 生物資源学部准教授／『アマノリ養殖品種の特性』
藤吉栄次[ほか]編集. 水産総合研究センター西海区水産研究所, 2014.3 [663.8/A 43]

【見かた】 ● 寄贈者 所属／『書名』 著者名. 出版社(者), 出版年月[請求記号]

編集後記



● 表紙の写真：本を探す学生さん。あるべき場所のない本は、スタッフ総出で探すこともあります。本を戻すときは元の場所へ、わからなくなったら返本台へ。ご協力をお願いします。

今年の夏は、台風11号の影響による豪雨で県内全域に大雨特別警報が発令されるなど、自然災害の恐ろしさを再認識しました。荒天の2日間は夏季休暇中の閉館日にあっていたことから、利用者の皆さんへの影響は避けることができましたが、我々図書館職員にとっては、水害により資料が損なわれることも気がかりな週末でした。幸いなことに、資料を含め、図書館の建物や職員にも被害はなくホッとしたところですが、しかしながら、最近の気象状況では、台風シーズンに限らず豪雨となることが多いため、心配の種は尽きません。